

日本発ドイツ便り : Nürnberger Christkindlesmarkt

春・夏・秋・冬と四季それぞれのニュルンベルクを訪れていますが、この時期だけは訪れたことがなかったのが、「クリスマス市」の時期のニュルンベルク！いつも年明け、クリスマス市の屋台の残骸を見ながら、「このクリスマス市ってどんなんやろ？」と思っていたのですが、今回初めてニュルンベルクのクリスマス市にいつてきました。(クリスマス市はだいたい12月23日とか24日の午前中に終わるところが多いのですが、フランクフルトのように、次の日の朝には普段通りの広場になっている「撤収型」とニュルンベルクやミュンヘンのように、しばらく残骸が放置されている「放置型」の2種類あるようです。)

クリスマス市とは、クリスマス前の4週間(アドヴェント期間)に出る市のこと。ドイツの街はそれぞれにクリスマス市が出るのですが、ニュルンベルクは数多くの中から、とくに「美しいクリスマス市」として有名です。(ちなみに一番歴史が古いのはドレスデンです) なんでもこの4週間の間にニュルンベルクだけで、世界各国から200-300万人の観光客が訪れるそうです。(ちなみに、ニュルンベルクの人口は50万人。すごいと思いませんか?)

ニュルンベルクのクリスマス市は正式にはNürnberger Christkindlesmarkt(ニュルンベルガー・クリストキンドルスマルクト: 幼子イエスの市)と言います。



市は町の中心の広場であります。(ここだけじゃなくて、街のいろんな広場でクリスマス市がありますが、まあメイン会場といったところでしょうか?) Zum Christkindlesmarkt(クリスマス市へ!)



Christkindがお迎え。



ものすごく寒くて雪が激しく降っていましたが、市にたどりつくと、光があふれていました！
（あとナッツを炒る甘い香りとソーセージを焼く匂い、そしてグリュウワインの香りも！）
あふれる光に呼び寄せられるように、人もたくさんで活気があります。もうこれ21：00 過ぎの写真なんですよ。（クリスマス市は曜日によっては～22：00 まで開いています。平日は20：00 ごろまで）



ちょうど教会前ではコーラスグループが歌っていました。
せっかくだけど、あまりの寒さにじっと聞いてはられない状態でした。（歌うほうも大変！）
基本的に市全体には音が流れてないです。（ここは日本との大きな違いかもしれません。）



翌日、雪にきれいに覆われた屋台。上からみたところです。屋台 (Buden) の数は150くらいでしょうか。クリスマス飾り・クリスマスのお菓子 (レーブクーヘンやフルーツケーキ)・焼きソーセージ・グリューワインというのが代表的。あとはロウソクとかはちみつ屋さんとか、香辛料屋さんとか。



ソーセージ屋さんの屋台。ニュルンベルクの名物の小さなソーセージをどんどん焼いていました。買い食い場合は、丸いパンに3本挟むのがニュルンベルク式。(↓こんな感じです)





飾りは木などで作った手作りのものも多いです。クリッペといわれるイエス様の生誕の場面の人形や飾りもたくさん売られています。こういうのを見ると、「ああ、キリスト教国だなあ」って感じです。
(ちなみにバイエルン州はカトリックが主です)



あとはガラスでできたものなど、結構手の込んだ(=お値段の高い)もの多くて、大事に毎年ちよとずつ買い足すのかなあ?という感じです。



そしてニュルンベルク名物！Zwetschgenmännla（ツヴェッシェンメンラ：すもも人形）
胴体がすもも、手足はプルーン、顔はくるみと、ドライフルーツでできた人形です。手作りだから、顔もひとつずつ表情が違うんですよ。見ていたら欲しくなって、小さい煙突掃除人さんを1人連れて帰ってきました。（飾り終わったら食料になる。というわけではないようです）



夜の様子。長くて暗い夜に、この光に人が吸い寄せられるのも分かるような気がしませんか？
クリスマス市に来る人を見ていると、てきぱき買い物をして帰る。というのではなくて、なんとなくぶらぶら見て回って、ちょっとソーセージをかじって、寒くなったらグリューワインで手を暖めながらおしゃべり。おいしそうなお菓子を試食しながら、気に入ったら買って帰る。いろんなお店を見ながら、今年のクリスマスプレゼントを考える。と、そんな感じです。「ちょっと遊びにいこか？」的な雰囲気というか…。皆がこの時期を楽しみにしている理由が分かるような気がします。

あとは週に何日かは Christkind も市にやってきて会うことができるのですが、今回はタイミングが合わず…。残念！
以上、簡単にニュルンベルクのクリスマス市でした。